

チューリップの花芽分化状況について(7月31日現在)

令和8年8月4日
経営普及課
(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要3品種のデータを紹介します。

1 供試球根

農業総合研究所園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

品種(系統)	掘取日	調査サイズ	初期乾燥	貯蔵
プレルジューム(T)	6月10日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
イルデフランス(SL)	6月10日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
メリーウィドー(T)	6月10日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵

2 花芽分化の状況

- (1) プレルジュームとイルデフランスは、花芽分化段階・ノーズ長とも前回調査(7月24日)から緩慢に進んでいる。現時点で3品種の花芽分化段階は、平年に比べ1～2段階程度早く、ノーズ長は同1～3週間程度早く伸長している。
- (2) 品種別の花芽分化段階は、プレルジュームでは雌ずい分化始期(G1)～雌ずい分化期(G2)で、平年に比べて2週間程度早い。イルデフランスは雌ずい分化始期(G1)～柱頭分化完成期(G3)に達し、同2週間程度早い。メリーウィドーは外花被分化期(P1)～雌ずい分化期(G2)で、同3週間程度早い。
- (3) 平均ノーズ長は品種により3.1～4.8mmで、プレルジュームは平年と比べて1週間程度、イルデフランスは同2週間程度、メリーウィドーは同3週間程度それぞれ早く伸長している。

3 年次別りん片含水率(7月10日定期調査)

花芽分化開始条件の一つであるりん片含水率は、メリーウィドーで57.3%、プレルジュームで55.5%、イルデフランスで56.9%と、いずれの品種も平年に比べてやや低く、水分の抜けは良い。

4 今後の技術対応等

- (1) 花芽分化の進展は、今後の気温等によって変動が予想されるため、促成切り花栽培に向けた冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。
- (2) 近年、夏季の猛暑が常態化していることから、年内切り花出荷を予定している球根では、調整等の準備が整い次第、中温処理(冷蔵庫内で20℃涼温管理)を行うことが望ましい。その際は、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

5 具体的データ

添付ファイル「T260731data(花芽)」参照

※ 次回の生育情報は、8月7日調査のチューリップ花芽分化(第6報)をお知らせする予定です。